様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　９ 月 １１ 日現在

機関番号：２２４０１
研究種目：基盤研究(B)（一般）
研究期間：2019～2023
課題番号：１９Ｈ０３９６６

研究課題名（和文）市民と保健医療者が共に考える「市民主導型ケア」教材のグローバルスタンダード開発

研究課題名（英文）Development of the Global Standard for the Material Incorporation People-Centered Care: Devised through Cooperation of the Community people and and Health Care Provider

研究代表者
高橋　恵子（Takahashi, Keiko）

埼玉県立大学・保健医療福祉学部・教授

研究者番号：９０２９９９９１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　12,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、我が国の超高齢社会に伴う深刻な健康課題の改善に向けた、市民と保健医療者とのパートナーシップを育む「市民主導型ケア：People-Centered Care（PCC)」教材を開発した。教材開発にあたっては、試作版のPCC教材を25名のユーザー（市民、保健医療者、教育者）が評価した結果を基に、内容を精錬した。完成版の教材は、「PCCとは」「実践例」「活動事例」の3パートに構成されたWeb教材（https://p-cc.jp/）となった。また、国外へのPCCの普及と活用を見据えて、英語版のWeb教材（https://p-cc.jp/en/）も、日本語版同様の内容で作成し、完成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
市民主導型ケアの推進に向け、市民と保健医療者が開発教材を用いることでそれぞれが自分にできることを考える機会を持ち、また共に考える機会を持つことで、双方のパートナーシップを育むことができる教材としての意義がある。教材の活用方法は、保健医療者を育てる教育機関、また市民と保健医療者が共にする地域支援活動の場、保健医療機関など幅広い場での活用が可能である。市民主導型ケア(PCC)は、市民個人の健康改善にとどまらず、地域や社会変容を目指した持続可能なケアであり、超高齢社会の我が国にとって有用なケアである。また世界にPCCの考え方を広く普及することで、ＳＤＧｓ（目標3）の達成を支援することも期待される。

研究成果の概要（英文）：In this study, an educational material for community people inisiative care, People-centered Care(PCC), which nurtures partnership between community people and health care providers, was developed aiming to implove various serious issues caused by hyper-aging society in Japan. In the proccess, a preliminary version of PCC material was evaluated by 25 users (oeganized by communuty peope, health experts and educators), and it was developed to complete web-base version (https://p-cc.jp/) which consists of such three parts as "What is People-Centered Care?", " Implementation Examples" and "Activity Examples". Moreover, it was tranlated to English version (https://p-cc.jp/en/) on the scope of future prevalance to foreign countries.

研究分野：基礎看護学

キーワード：People-Centered Care　市民主導型ケア　パートナーシップ　市民　保健医療者　教材開発

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

医療技術の飛躍的な進歩の一方、生命倫理の問題、気候変動、健康格差や社会情勢の変化などから生じる深刻な健康問題の危機に、人々は直面している。さらに、わが国は、超高齢社会に突入すると同時に少子化による人口減少を伴い、将来の社会保障制度の維持に向けて課題がある。また、家族世帯の縮小化による脆弱な人の孤立の問題など、人々の生活を取り巻く環境も大きく変化し、複雑化、複合化した課題が顕在化している（厚生労働省 2023）。このようなリスク要因に加え、ライフスタイルや価値観が多様化する中、個人の価値観にあった生活を目指し、地域や生活の場での支援と共に個人の対応力が問われる時代となっている。このような背景の中、従来型の保健医療者主導による支援には限界があり、つながり・支え合いのある地域共生社会を推進するとともに、市民主導の健康生成に向けた考え方が不可欠となる。つまり、この健康課題解決の鍵は、市民がいかにこの健康問題を自分のこととして捉え、保健医療者とのパートナーシップに基づき自らの健康を守り創っていくかにかかっている。

わが国では、聖路加国際大学が 2003 年より文部科学省 21 世紀 COE プログラムの採択により、健康問題への改善に向け、市民が主体的に自分たちの健康を自分たちで創り守る社会を目指し、市民とのパートナーシップに基づく People-Centered Care（以下；PCC）という新たな市民主導型のケア形態の取り組みを先駆的に進めてきた（聖路加看護大学 21 世紀 COE プログラム報告書．2008）。研究者らは、そのプロジェクトに参与し、「医療における上下関係でない市民と保健医療者が同じ土俵に立ち、共通する悩みや苦悩、潜在的ニーズを抱える人々が直面している健康問題の解決策を探ること」そして「市民とのパートナーシップに基づき、その実現化のために市民主導型の看護実践モデルを構築すること」を目的に取り組んできた。その結果、子どもから高齢者までのライフサイクル及び、病気（illness）からより健康な状態（wellness）の広範囲の対象へのケアアプローチを推進し、あらゆる対象に適用可能なパートナーシップに基づく新たなケア形態の方法論を示した（有森他．2009）。さらに、市民主導型ケアがもたらした成果として、個人の健康問題の改善に留まらず、活動グループ、コミュニティにおける「資源の獲得」「関係の進展」「能力の開発」「QOL の充足感」に関わる意識変革、さらに活動を継続的に発展させるケアシステムの拡充にまで及ぶことが示唆された（大森他．2009）。研究者らは、市民主導による健康生成（PCC）を概念化し（Kamei et al.2017）（髙橋他．2018）【図 1】、また核となる「市民と保健医療者とのパートナーシップ」の８要素（①互いを理解する、②互いを信頼する、③互いを尊敬する、④互いの持ち味を活かす、⑤互いの役割を担う、⑥共に課題を乗り越える、⑦意思決定を共有する、⑧共に学ぶ）を見出した（髙橋．2018）【図 2】。

本研究では、５ヶ年計画を通して、研究者らが、この健康課題の解決に向け 2003 年度から取り組んできた「市民主導型ケア（PCC）」の普及をめざすと共に、PCC に欠かせない市民と保健医療者とのパートナーシップを育成する教材を開発するものである。

図 1.　PCC モデル

図 2．PCC に欠かせない
市民と保健医療者とのパートナーシップ

２．研究の目的

本研究の目的は、現代の健康課題の解決に向けた「市民主導型ケア（PCC）」の普及をめざし、PCC に欠かせない市民と保健医療者とのパートナーシップを育成する教材を開発するものである。そこで、本研究では、下記の【目的 1】【目的 2】【目的 3】の順に、取り組んだ。

（1）【目的 1】「市民主導型ケア（PCC）」教材（試作版）の作成：研究者らが取り組んできた研究成果を集約し、市民と保健医療者が共に考える「市民主導型ケア（PCC）」教材の試作版を作成する。

（2）【目的２】教材（試作版）のユーザビリティ評価：「市民主導型ケア（PCC）」教材の試作版の利便性、内容妥当性、表面妥当性を教材のユーザ（市民・保健医療者、教育者）から評価する。

（3）【目的 3】「市民主導型ケア（PCC）」教材（試作版）のユーザビリティ評価の結果を基に、教材を精錬し、完成させる。同時に、グローバルスタンダードとなる英語版の「市民主導型ケア（PCC）」教材を完成させる。

３．研究の方法

(1)【目的１】「市民主導型ケア（PCC)」教材（試作版）の作成

市民と保健医療者が共に考える「市民主導型ケア」教材（試作版）を作成する目的で、以下の[ステップ 1]から[ステップ 3]の手順で進めた。[ステップ１]では、研究者らが、2003 年から取り組んできた PCC の研究成果となる資料（研究論文、パンフレット、PCC 活動事業の報告書等）を収集した。[ステップ 2]では、収集した資料を集約し、PCC の分野に精通する保健医療者 10 名と市民１名の計 11 名で教材の内容、方法について検討を重ねた。[ステップ３]では、教材の構成と内容、提供の対象と方法を決定し、市民主導の健康生成に向けて市民と保健医療者と共に活動する事業の責任者の協力を得て、教材の試作版を作成した。教材作成時の倫理的配慮としては、教材で使用する場所、写真、人物が登場する動画の作成には、施設への撮影許可及び各事業責任者、出演者に本教材の目的を説明し承諾を得て進めた。

(2)【目的 2】教材（試作版）のユーザビリティ評価

作成した教材（試作版）の利便性、内容妥当性と表面妥当性を検討する目的で、教材（試作版）のユーザビリティ評価を行った。評価教材は、【目的 1】で作成した８つの動画教材と Web サイトを含めて評価した。全動画視聴の所要時間は約 60 分程度であった。調査対象は、市民主導型ケア（PCC）の取り組みを理解するユーザ（市民、保健医療者、教育者）とした。調査対象のリクルート方法は、Nielsen & Landauer（1993）が示すユーザビリティ評価に必要な対象数を算出後、機縁法を用いて協力候補者 26 名（市民 7 名、保健医療者 10 名、教育者 9 名）を選出し、調査協力を依頼した。調査方法は、2023 年 3～5 月に、PCC 教材サイト（試作版）を視聴してもらい、Web アンケートで教材の利便性と妥当性の回答を求めた。調査内容は、属性データ 9 項目（立場、年代、PCC 事業への参与など)、PCC の理解、試作版教材の体裁・教わかりやすさ・情報のバランス、情報量の適切性、役立ち、英語版の必要性、全体的な満足度などの 15 項目を評価した。分析方法は、記述統計量を算出し、度数分布から統計量を得た。倫理的配慮は、研究代表者の所属大学研究倫理委員会の承認（承認番号 22087）を得た。

(3)【目的 3】「市民主導型ケア」教材の作成（日本語版・英語版）

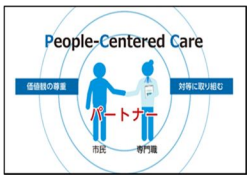
【目的 3】を実施する目的で、【目的 2】で実施した教材のユーザビリティ評価の結果を基に、研究者らと検討し、[ステップ 1]では、動画教材と Web サイト（日本語版）を精錬し、完成させた。[ステップ 2]では、日本語版の教材内容に沿って、グローバルスタンダードになる英語版の教材を作成し、完成させた。

４．研究成果

(1)【目的 1】「市民主導型ケア（PCC)」教材（試作版）の作成

教材の目標は、市民が自分たちの健康課題の改善に向けて、PCC 教材を活用し、市民と保健医療者が PCC の必要性を理解し、「市民・当事者にできること」「保健医療者にできること」について、市民と保健医療者が共に考える機会となることを挙げた。教材を利用する対象は、市民と保健医療者の両者に向けた。具体的には、個々の健康課題の改善に向けて、市民または専門職と共に既に活動に取り組んでいる者、または、市民または保健医療者とこれから共に活動に取り組もうと考えている者が活用することを想定し、作成した。

教材のタイトルは、「共に考えよう“市民と保健医療者のパートナーシップ”」とした。教材の枠組みは、PCC に欠かせない市民と保健医療者とのパートナーシップの８要素【図 2】を用いた動画を作成した。教材は、3 つのパート［パート 1：PCC とは（2 本のアニメーション動画：①PCC とは：3 分） ②市民と専門職とのパートナーシップ：7 分)］［パート 2：PCC 実践例（1 本の実写動画：健康相談場面による実践例：10 分)］［パート 3：PCC の活動事例（実写動画：5 つの PCC の活動事例)］に区分した【図 3】。３つのパートを通して、「PCC に欠かせない市民と保健医療者のパートナーシップの必要性を紹介するものとした。これらの PCC 教材（試作版）は、Web 上と、DVD の 2 種類による動画の視聴方法を準備した。



［パート 1：PCC とは］

［パート 2：PCC の実践例］

［パート 3：PCC の活動事例］

図 3.「市民主導型ケア」教材（試作版）

(2)【目的 2】教材（試作版）のユーザビリティ評価

調査対象として、ユーザとなる市民 8 名、保健医療者 10 名、教育者 7 名の計 25 名（回収率 96.2%）に、協力回答が得られた。対象者の属性は、女性が 88.0%、年代は 50 歳代（28.0%）と

最も多かった【表 1】。就労者は 60%であり、PCC 活動グループ参与者は 56.0%であった。PCC 教材の妥当性としては、文字の大きさ、デザイン、情報量、情報のバランス、分かりやすさ、サイト操作性について、80%以上が「そう思う」～「ややそう思う」の高い評価を示した。PCC についての理解、PCC の重要性の理解、教材サイトの役立ち、全体の印象の良さについても、95%以上が「そう思う」～「ややそう思う」の高い評価を示した【表 2】。良かった点として PCC の具体例の動画が紹介され分かりやすいことが挙げられた。改善点には、デザインの統一性や操作上の工夫（視聴希望の動画を選択できる方法、全ページからトップ画面に戻る操作、活動事例の種類を増やすこと）など具体的な提案が挙がった。英語版の教材は、72%があるとよいと回答した。

対象者のユーザビリティ評価から、教材の改善点はあるが、保健医療専門職や教育者だけでなく、当事者の市民にとっても、概ね分かりやすい内容で、PCC の重要性が伝わる教材になっていたことが示された。教材サイト（試作版）を作成し、市民・保健医療者・教育者のユーザによる内容・表面の妥当性と有用性が確認された。

表 1. 対象者の属性（N=25）

項目	n	%
立場		
市民(当事者)	8	32.0
保健医療専門職	10	40.0
教育担当・教員	7	28.0
性別		
男性	3	12.0
女性	22	88.0
年齢		
20歳代	3	12.0
30歳代	6	24.0
40歳代	5	20.0
50歳代	7	28.0
60歳代	1	4.0
70歳代	3	12.0
就労		
就労者	15	60.0
学生	5	20.0
主婦・主夫	5	20.0
PCC活動グループ参与		
あり	14	56.0
なし	11	44.0
責任者(n=14)		
はい	3	12.5
いいえ	11	45.8
職種（n=17)		
看護職	17	100.0
経験年数（n=17)		
1年から5年未満	2	11.8
5年から10年未満	1	5.9
10年以上	13	76.5
無回答	1	5.9

表 2. 対象者のユーザビリティ評価（N=25）

項目		n	%
文字の大きさは見やすい			
	そう思う	19	76.0
	ややそう思う	5	20.0
	あまりそう思わない	1	4.0
	そう思わない	0	0.0
デザインは見やすい			
	そう思う	18	72.0
	ややそう思う	3	12.0
	あまりそう思わない	4	16.0
	そう思わない	0	0.0
情報量は適切である			
	そう思う	10	40.0
	ややそう思う	10	40.0
	あまりそう思わない	5	20.0
	そう思わない	0	0.0
情報のバランスは適切である			
	そう思う	12	48.0
	ややそう思う	9	36.0
	あまりそう思わない	4	16.0
	そう思わない	0	0.0
内容は分かりやすい			
	そう思う	18	72.0
	ややそう思う	7	28.0
	あまりそう思わない	0	0.0
	そう思わない	0	0.0
サイトの操作は分かりやすい			
	そう思う	20	80.0
	ややそう思う	3	12.0
	あまりそう思わない	2	8.0
	そう思わない	0	0.0
PCCについて理解した			
	そう思う	21	84.0
	ややそう思う	4	16.0
	あまりそう思わない	0	0.0
	そう思わない	0	0.0
PCCの重要性が伝わった			
	そう思う	20	80.0
	ややそう思う	4	16.0
	あまりそう思わない	1	4.0
	そう思わない	0	0.0
サイトは役に立った			
	そう思う	21	84.0
	ややそう思う	4	16.0
	あまりそう思わない	0	0.0
	そう思わない	0	0.0
動画視聴はWebとDVDのどちらがよいか			
	Webがよい	17	68.0
	DVDがよい	0	0.0
	両方あるとよい	8	32.0
サイトの全体的な印象はよかった			
	そう思う	20	80.0
	ややそう思う	4	16.0
	あまりそう思わない	1	4.0
	そう思わない	0	0.0
どの媒体でサイト試聴したか			
	パソコン	18	72.0
	スマートフォン	4	16.0
	タブレット	2	8.0
	複数	1	4.0
英語版のサイトもあるとよい			
	英語版もあるとよい	18	72
	日本語版だけでよい	7	28

(3)【目的 3】-1「市民主導型ケア」教材の作成（日本語版・英語版）

[ステップ 1]日本語版の教材作成：完成に向けて

教材サイトのタイトルは、「共に考えよう市民中心のケア：People-Centered Care」とし、教材の枠組みは、PCC に欠かせない市民と保健医療者とのパートナーシップの８要素で進めた。教材は、3 つのパートが理解しやすく［パート 1：PCC とは（PCC の概念）］［パート 2：PCC 実践例］［パート 3：PCC の活動事例］の区分を維持した。Web サイトのトップページは、利用者の関心を持つ入口のため、サイトの目的をアニメーションで簡潔に紹介する動画（2 分程度）を日本語版に追加した。加えて、Web サイトには、動画教材の根拠資料となる PCC の業績一覧、研究者らの研究成果（PCC パートナーシップ尺度、PCC ガイド等）を共有活用できるように掲載した。また、Web サイトの文字の大きさ、全体の統一性を整え、精錬した。また、動画教材については、[パート 1：PCC とは]の市民と保健医療者のパートナーシップの紹介動画の動きが単調であったことでの改善案があり、新たに動きを加えて修正した。また、[活動事例]の紹介事例については、ユーザの意見をもとに、事例のパターンを増やす目的で、5 事例から 7 事例に増やした。今後も必要に応じて活動事例の入れ替えや、増やすことなどが負担なく更新できるよう、動画に限定せず静止画のスライド紹介を加えた。教材の視聴方法には、最終段階において、ユーザ調査の結果を反映し、デザインの統一、操作方法の改善、紹介事例の追加を行った。PCC 教材の提供方法は、最終的に、いつでも、どこでも、何度でも、視聴可能な Web 上での提供に限定した。

[ステップ 2]英語版の教材作成：完成に向けて

日本語版の教材内容に沿って、英語版の教材を作成した。英語版の［パート 2：実践例］［パート 3：活動事例］の動画教材については、静止画像のスライド紹介とした。

以上より、以下（次頁）に示す日本語版（https://p-cc.jp/）と英語版（https://p-cc.jp/en/）の PCC 教材が完成した。今後は、健康課題の改善に向け、PCC に欠かせない市民と保健医療者とのパートナーシップを育むために、教材の普及と共に更なる本教材の活用可能性を検討していきたいと考える。

(4)【目的 3】-2 完成した市民主導型ケア（PCC）教材

①PCC 教材サイト（日本語版，英語版）

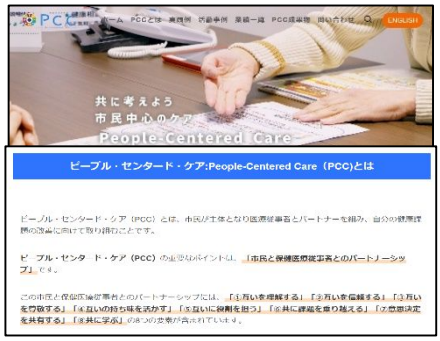


図 4.Web サイト（日本語版　https://p-cc.jp/）

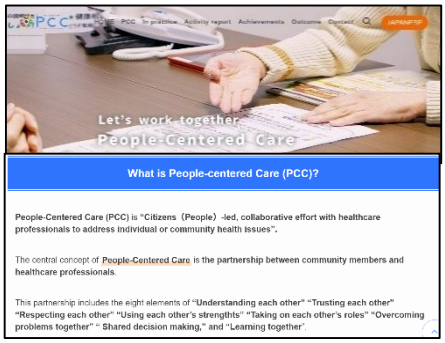


図 5.Web サイト（英語版　https://p-cc.jp/en/）

②導入：教材の目的（日本語版）

③パート 1：PCC とは（日本語版・英語版）

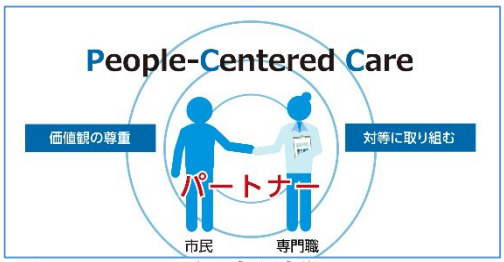


図 6.PCC とは（日本語版）

図 7.PCC とは（英語版）

④パート 2：PCC の実践例（健康相談の場面）（日本語版・英語版）

写真 1.PCC 実践例（日本語版）

写真 2.PCC 実践例（英語版）

⑤パート 3：PCC の活動事例（1～7 事例）（日本語版・英語版）

図 8.PCC 活動事例（日本語版）

図 9.PCC 活動事例（英語版）

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　4件）

１．著者名 髙橋 恵子，朝澤 恭子，有森 直子，亀井 智子，麻原 きよみ，大森 純子，新福 洋子，菱沼 典子，田代順子	４．巻 40
２．論文標題 People-Centered Careパートナーシップ(PCCP)-16尺度の開発 ―市民と保健医療専門職の協同に着目した信頼性と妥当性の検討―	５．発行年 2020年
３．雑誌名 日本看護科学会誌	６．最初と最後の頁 620-628
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5630/jans.40.620	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Takahahi Keiko,Ota Erika	４．巻 16
２．論文標題 Assessment Scale educational Materials For People Centered Care in the community Partnerships Between Community People and Healthcare Professionals	５．発行年 2023年
３．雑誌名 New GNWHOCCNM LINKS Magazine	６．最初と最後の頁 34-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Keiko Takahashi	４．巻 -
２．論文標題 Development of People-Centered Care online learning materials.	５．発行年 2021年
３．雑誌名 2021 ANNUAL REPORT：St. Lukes International University, Tokyo, Japan WHO Collaborating Centre for Nursing Development　in Primary Health Care	６．最初と最後の頁 5－6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Keiko Takahashi	４．巻 -
２．論文標題 Educational video for People-Centered Care in the Community.	５．発行年 2022年
３．雑誌名 2022 ANNUAL REPORT：St. Lukes International University, Tokyo, Japan WHO Collaborating Centre for Nursing Development　in Primary Health Care	６．最初と最後の頁 5－6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 髙橋恵子，朝澤恭子，有森直子，亀井智子，麻原きよみ，菱沼典子，新福洋子，大森純子
２．発表標題 People-Centered Care パートナーシップの関連要因 －医療系大学が地域に開く市民健康情報サービス事業を対象に－
３．学会等名 第24回聖路加看護学会学術大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 髙橋恵子，朝澤恭子，有森直子，亀井智子，麻原きよみ，大森純子，新福洋子，菱沼典子，田代順子
２．発表標題 People-Centered Care パートナーシップの高齢者健康支援活動の特徴：2群間比較から
３．学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会
４．発表年 2020年

１．発表者名 髙橋恵子，有森直子，菱沼典子，中村めぐみ，亀井智子，麻原きよみ，射場典子，新福洋子，朝澤恭子，大森純子，田代順子
２．発表標題 市民と保健医療専門職が共に考える「People-Centered Careパートナーシップの教材作成への取り組み
３．学会等名 第27回聖路加看護学会学術大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 髙橋恵子，朝澤恭子，有森直子，亀井智子,麻原きよみ，新福洋子，大森純子，菱沼典子，田代順子
２．発表標題 People-Centerd Care事業における市民と専門職のパートナーシップ尺度からみたメンバー特性による分析
３．学会等名 第42回日本看護科学学会学術集会
４．発表年 2022年

〔図書〕　計1件

1．著者名 髙橋恵子　（亀井智子編）	4．発行年 2020年
2．出版社 メヂカルフレンド社	5．総ページ数 4
3．書名 老年看護学① 老年看護学概論／老年保健 第3章 Ⅳ ピープル・センタード・ケア	

〔産業財産権〕

〔その他〕

・【日本語版】PCCポケットガイド
https://p-cc.jp/wp-content/uploads/2024/03/%E3%83%9D%E3%82%B1%E3%83%83%E3%83%88%E3%83%91%E3%83%B3%E3%83%95%E6%97%A5%E6%9C%AC%E8%AA%9E2024%E7%89%88_0318.pdf
・【英語版】PCCポケットガイド
https://p-cc.jp/en/wp-content/uploads/2024/03/%E3%83%9D%E3%82%B1%E3%83%83%E3%83%88%E3%83%91%E3%83%B3%E3%83%95%E8%8B%B1%E8%AA%9E2024%E7%89%88_0319.pdf
・【日本語版】PCC-P尺度
https://p-cc.jp/scale02/
・【英語版】PCC-P尺度
https://p-cc.jp/en/out-come/
・ピープル・センタード・ケア（市民中心のケア） People-Centered Care
日本看護科学学会：看護学学術用語検討委員会
https://scientific-nursing-terminology.org/terms/people-centered-care/

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	有森　直子 (Arimori Naoko) (90218975)	新潟大学・医歯学系・教授 (13101)	
研究分担者	亀井　智子 (Kamei Tomko) (80238443)	聖路加国際大学・大学院看護学研究科・教授 (32633)	
研究分担者	麻原　きよみ (Asahara Kiyomi) (80240795)	聖路加国際大学・大学院看護学研究科・教授 (32633)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	朝澤　恭子 (Asazawa Kyoko) (70737155)	東京医療保健大学・看護学部・准教授 (32809)	
研究分担者	新福　洋子 (Shimpuku Yoko) (00633421)	広島大学・医系科学研究科（保）・教授 (15401)	
研究分担者	大森　純子 (Omori Junko) (50295391)	東北大学・医学系研究科・教授 (11301)	
研究分担者	射場　典子 (Iba Noriko) (00258980)	聖路加国際大学・大学院看護学研究科・准教授 (32633)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関